



乳児の特性を知って事故を防ごう

子どもの事故の7割近くが、実は家庭内で起きています。0歳児の事故死の9割以上は、窒息によるものです。事故のリスク軽減のために家庭でできることを考えてみましょう。

原則は『子どもから目を離さない』ですが、乳児の特性を知り、事故防止に役立てましょう。

①

誤飲



乳児は、口が身体の中で一番発達していると言われており「これは何かな？」といろいろな物を口に入れ、確認をする姿が多く見られます。

対処法



身の回りに小さなもの（直径39mm以下）は置かないようにしましょ

この円（直径39mm）の中を通る物は赤ちゃんの口に入ります。

②

窒息



睡眠中の乳児が、柔らかい寝具、スタイなどに口をふさがれ窒息する事故やベッドと壁の隙間などに挟まれて窒息するなどの事故も起こっています。

対処法



寝かせる時は、あお向けに寝かせましょう。また、ベッド内にぬいぐるみ、ひも、ポリ袋などは置かずスタイも外しましょう。柵の隙間などに頭や顔が挟まらないよう、ベッドの端に寝かすのはやめましょう。

③

やけ



加湿器や炊飯器の熱い蒸気、電気ポットや温風ストーブで、やけどにつながる可能性があります。

対処法



高熱の暖房器具は安全柵で囲い、蒸気の出る器具は手の届かない場所に置きましょう。

④

転落



ソファやベッドに寝かせていた為にすり落ちてしまったり、子ども用ハイチェアから転落する事故があります。

対処法



転落してもケガのないようにソファやベッドの下に座布団などを敷いておきましょう。ハイチェアは安全ベルトを締め、一人で座らせたままにしないようにしましょ。